

# 広報あつま

2021年 4月号  
令和3年

もくじ  
CONTENTS

- 2 ひとのうごき
- 3-8 執行方針
- 9 町職員の人事異動
- 10-11 令和3年度予算
- 12-16 お知らせ
- 17 新型コロナウイルス感染症に関する支援情報
- 18 令和3年第1回定例会
- 19 防災のページ
- 20-21 まちの話題
- 22 厚高インフォメーション／短歌  
法務局メモ
- 23 ごみ収集日の変更  
こぶしの湯あつま／まちのアイドル
- 24-25 保健の掲示板／子育て支援センター
- 26 健康情報
- 27 情報ひろば
- 28 ATSUMA LOVERS

※広報担当が取材した記事は、写真撮影時のみマスクを外しています。

## 今月の表紙 COVER



卒業シーズンが到来し、町内の小・中・高校5校で98人が学び舎を後にしました。上厚真小学校では3月19日、卒業証書授与式があり、卒業生は思い出の1枚に笑顔で応えました。

## ひとのうごき

令和3年3月31日現在 ( )内は前月比

人口 4,420人 (-32)  
男 2,214人 女 2,206人

世帯数 2,112世帯 (-7)

# 執行方針

3月8日に行われた第1回町議会定例会で、宮坂町長は令和3年度の施政方針、遠藤教育長は教育行政執行方針を述べました。胆振東部地震の復旧・復興に加え、ポストコロナ社会への対応など、町政運営の基本姿勢や今後のまちづくりへの取り組みについて、主な内容を紹介します。

## 施政方針 (要約)

### 地方創生の新たな局面に 積極的な政策を展開します

厚真町長 宮坂 尚市朗

#### 平成30年北海道胆振東部地震災害からの復旧・復興について

##### ▼公共土木施設等の復旧

町が管理している町道および河川については以下に述べる箇所を除き、本年3月までに復旧工事が完了しますが、北海道に代行委託している町道幌内沢線ならびに町が実施するウクル川および北海道に代行委託している日高幌内川および赤間の沢川が本年度完成予定となっております。北海道が管理する道道については、本年3月までにすべて完成する予定であり、同じく河川については、厚幌ダムと日高幌内川が本年度内完成予定です。なお、日高幌内川上流の天然ダムは埋め立てが進んだことか



##### ▼砂防・斜面対策事業

日高幌内川やチケツペ川、東和川など4溪流の緊急砂防事業については、本年度も引き続き、砂防堰堤の嵩上げなど恒久対策工事が進められます。

また、北海道が実施するシユルク沢川など10溪流の砂防事業と吉野地区と富里地区の急傾斜地崩壊対策事業については、本年3月までにすべて完成する予定です。

町が実施の宅地耐震化推進事業については、ルーラルビレッジ地区と新町パークタウン地区において、引き続き対策工事を実施してまいります。完成予定は、地籍調査を含めて

ルーラルビレッジ地区は令和5年度、新町パークタウン地区は令和4年度の完成をめざしています。

##### ▼農業関連施設等の復旧

直轄災害復旧事業(勇払東部地区)は、厚真ダムの洪水吐や取水施設、放流施設の復旧作業が本格的に進められており、本年度も事業継続されます。用水路についても、厚幌導水路を主体に復旧が進められており、令和4年度以後に部分的な試験通水が行われ、令和5年に厚真ダムの試験通水が予定されています。

国営農業用水再編対策事業の再開は、直轄災害復旧事業の完了後となりますが、一日も早く安定的な農業用水が供給されるよう事業の円滑な実施を国に働きかけてまいります。

土砂の流入などにより被害を受けた農地155・31ha、農業施設62箇所の復旧については、他事業との関係で北海道が実施する一部工事に遅れがみられますが、本年6月までにすべて完了する見込みとなっております。

町が実施する林道については、3路線23箇所の災害復旧工事のうち、本年3月までに19箇所が完了し、本年度は1路線4箇所の復旧工事を予定しています。

治山事業については、北海道が実施主体となりますが、災害復旧事業などで計画している142箇所のうち、着手済みは92箇所、令和5年度の事業完了を予定しています。

##### ▼被災地区復興の取組

北部山間地の幌内、高丘、富里および吉野地区の4地区については、昨年に取りまとめた地域再生計画に基づき、本年度は北部地域の災害時拠点避難施設を建設し、同時に、災害時の避難迂回路となる町道幌内左岸線の一部道路改良と新町富里線との接続に必要な調査・設計を実施します。また、同地区での生活再建を希望する方を対象とする小規模改良住宅を建設してまいります。

吉野地区については、災害復旧箇所の環境保全を図っていくとともに、今後の土地利用についても引き続きご遺族など関係者と協議を行いながら、将来的な土地利用構想について検討を進めてまいります。

#### ▼被災記憶の継承

第1に、北海道胆振東部地震慰霊碑などについて、ご遺族など関係者の意向を確認しながら、建立に向けた準備を進めてまいります。第2に震災記録・記憶を多くの方に読んでいただけるような構成で取りまとめまいります。

第3に、日高幌内川・チケッペ川・東和川上流部、現厚真町庁舎などを震災遺構として、あるいは交流や植樹、研究の場として、どう生かしていくか検討してまいります。

### 人が輝くあつまをめざして

#### ▼子ども・子育て支援の充実

子育て世代包括支援センターを中心に各ごとも園、子育て支援センターにおいて、常に乳幼児やその保護者に寄り添いながら子育てや家族、社会参加などあらゆる相談に対応するとともに人とのつながりの場を提供し、また、乳幼児健診や発育相談などの機会を通じて、アウトリーチなどの継続的支援体制を構築してまいります。

#### ▼生涯学習の充実

学校教育では、ICT教育支援員を配置するなど情報端末の教育的活

用の環境整備に努めてまいります。

学校施設では、上厚真小学校の登下校に使用する町道の改良工事、厚真中央小学校屋外プール更衣室の新設工事を実施するほか、厚真中学校グラウンドを公認陸上競技場に改修するための実施設計に着手します。

今後の地域振興やまちづくりにとって重要な教育機関である北海道厚真高等学校については、同校教育振興会への支援に加え、同校活性化促進事業として公営塾の開設準備を進め、魅力ある学校づくりを支援してまいります。

本町でも聖火リレーやパラリンピック採火式が行われます。また、ホストタウンとして迎える大会でもありますので、将来においてオリンピックレガシーとして語り継がれるよう取り組んでまいります。

#### ▼まちづくり人材の育成

昨年から、経営パートナーや継承者育成を視野にいたれた企業研修型を創設しましたが、地域おこし協力隊の獲得に関して地域間競争が激しさを増していますので、本年度からは、さらに選択されやすい環境を整えるなど、取組を強化してまいります。

#### ▼関係人口の創出

イベントや観光に訪れる交流人口から一歩踏み込み、地域と多様にかかわる「関係人口」の創出・拡大に積極的に取り組んでまいります。

町外からまちづくりに参画する人材が、町民と同様のサービスを受け

本年度、計画樹立の手続きが2年目となり、採択に向けた調整を図るとともに上鹿沼第2、下鹿沼地区の計画樹立手続きを開始してまいります。

#### ▼森林再生と林業振興

被災森林の再生と林業振興につきましては、研究者に加え、北海道などの関係機関により構成された厚真町森林再生・林業復興会議での議論を踏まえた「厚真町被災森林の機能回復に向けた対応方針」に基づき、被災した森林の再生および林業の復興を推進してまいります。

#### ▼商工業の振興

ポストコロナ社会に合わせた新生活スタイルを視野にいれ、キャッシュレス決済やECサイトビジネス（電子商取引）など、地域の潜在力を掘り起こす新しい地域ビジネススタイルに挑戦できるような環境を整えてまいります。

#### ▼企業誘致と雇用機会の確保

地方創生交付金事業として東京一極集中の是正や地方の担い手不足への対処を目的に、U-Jターンによる起業・就業者創出を図る「地方創生移住支援事業・マッチング支援事業」を北海道と共同実施し、雇用機会の拡大や雇用確保につなげてまいります。

#### ▼観光・交流のまちづくりの推進

ポストコロナ社会を見据えて、厚真町観光協会とともにサーフィンやキャンプ、スポーツ合宿、フットパス、バーベキュー、ゲストハウスなど体験型、滞在型の観光資源の磨き

活躍できる「(仮称)関係人口登録制度」や、今後増加が予想される空き家などの遊休不動産の流動化や分譲地の販売・管理、関係人口創出関連施設の管理・運営など、官民協働で将来のまちづくりを担う組織となる「あつま型まちづくり会社」の設立について検討を進めてまいります。

また、本年度、町に払い下げ予定の厚幌ダム事務所などを活用した住宅付きサテライトオフィスや、リモートワークの傍ら余暇も楽しむことができるワーケーション施設の整備を進めるとともに、既存を含めたこれら施設への進出企業誘致のためのPRモニターや支援を実施してまいります。

### 健やかで安心なあつまをめざして

#### ▼高齢者福祉・介護、障がい者福祉の充実

本年4月からは、第8期厚真町高齢者保健福祉計画・厚真町介護保険事業計画および第6期厚真町障がい福祉計画・第2期厚真町障がい児福祉計画がスタートします。

現在、市町村に求められている地域住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築を推進するためには、「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に行う体制の再構築がその一歩となります。社会福祉法に基づく新たな事業「重層的支援体制整備事

上げや商品開発に努めてまいります。また、こぶしの湯あつま周辺の低利用地へのバーベキューハウスの移築と公衆トイレの改築を行い、団体客の誘導を促進してまいります。

### 快適に暮らせるあつまをめざして

#### ▼都市計画の推進

本年度は、厚真、上厚真両市街地の整備方針となる立地適正化計画を策定します。計画策定にあたっては、住居区域や公共施設、商業施設などの生活利便施設の配置など、市街地の用途区域を明らかにする将来像となることから、関係機関の議論はもとより、町民の皆さんからの意見も十分に反映してまいります。

#### ▼道路・河川の整備

本年度は、新町フォアラム線が供用開始するほか、厚真川左岸道路や上厚真小学校通り線など繰越予算を含め8路線の整備を進め、あわせて、橋梁の長寿命化や道路の老朽化対策に取り組んでまいります。

河川については、崩壊した山間部からの土砂や倒木による河道閉塞に対応するため緊急的な浚渫や除木を進めるとともに、河道修正や護岸の補修などは氾濫危険箇所を解消し、防災・減災の取組をインフラの面からも強化してまいります。

北海道が管理する道道について、上幌内早来停車場線が幌内地区の舗装路盤工、厚真浜厚真停車場線は厚真インター交差点から上厚真方面の

業」が創設されました。前述の3つの基本支援に加えて、アウトリーチなどを通じた継続的支援、多機関協働、支援プランの作成が求められており、本町も本年度から令和5年度にかけて必要な体制整備を段階的に進めてまいります。

また、介護人材の育成や確保に関する支援を充実させ、町内事業者の経営安定と要介護者の安心した暮らしが保障されるよう関係機関とともに取り組んでまいります。

本年3月にはNPO法人ゆうあいネットあつまが運営するサービスパイザーと連携し、孤立を防ぎ、社会参加を促すなど訪問支援を継続してまいります。

#### ▼保健・医療の充実

北海道胆振東部地震から2年以上が経過する中で、心身全般の健康管理のあり方が、重要な課題となっています。特に、環境の変化に伴う不眠や被災体験からくるPTSD（心的外傷後ストレス障害）など、見過ごせない症状をお持ちの方を中心に、北海道臨床心理士会や厚真町社会福祉協議会などの関係機関と連携し、個別支援および地区支援を継続してまいります。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、収束に向けて大きな期待

が寄せられているワクチン接種については、町内の医療機関と連携して、集団接種を中心に早期に実施してまいります。ワクチン接種に関するコールセンターの設置や接種会場の感染予防など、さまざまな不安に応えられるよう万全を期してまいります。

### みのり豊かなあつまをめざして

#### ▼農業農村の振興

新たな視点に立った農業・農村づくりをめざし、第8次厚真町農業振興計画の策定に取り組んでまいります。

担い手対策については、引き続き担い手育成基金による新規参入者や農業後継者への各種支援に取り組むとともに、新農業者育成協議会や担い手研修農場・農業担い手育成センターを通して、地域おこし協力隊・農業支援員などの新規就農者を育成し、栽培技術研修から就農までの支援を総合的に展開してまいります。

#### ▼畜産の振興

引き続き酪農経営安定対策事業や和牛経営安定対策事業を推進し、生産基盤の強化と経営の安定を図ってまいります。

#### ▼農業農村整備事業

道営ほ場整備事業については、豊共第2、幌内富里、1区下流、1区上流、幌内沢地区の5地区で整備工事を実施してまいります。また、次期採択をめざす上鹿沼第1地区は、

舗装路盤工、北進平取線は落石対策箇所の調査設計が予定されています。二級河川では、厚真川の二期改修として日高自動車道から上流に向けて完成断面による掘削や護岸整備などに着手し、入鹿別川では長沼川合流付近から上流の掘削と護岸整備が予定されています。

#### ▼公園・緑地の整備復旧

幌内地区の環境整備に関して、緑地公園もしくは多目的広場、パークゴルフ場、ヘリポート、展望施設などの整備内容について、幌内活性化委員会と協議を再開し、災害復旧状況を考慮した町としての整備構想を明らかにしてまいります。

新町パークゴルフ場の代替施設については、厚真市街地周辺での再建を検討しており、次年度の整備着手をめざしてまいります。豊沢地区の百年記念公園は、国営かんがい排水事業厚幌導水路復旧工事完成後の整備着手となりますが、同地区の自然環境や環境保全林の活用とも連携した再整備を検討しており、まずは地域の皆さんと意見交換をさせていただきたいと考えています。

#### ▼地域公共交通の充実

本年度、地域公共交通や地域フィダー網の再構築を図るため地域公共交通計画を改定します。

循環福祉バスについては、より柔軟な運行形態への改編や市街化区域および周縁部における利便性の向上、タクシースターの補完機能など地域公共交通活性化協議会において総合的

に見直しを行ってまいります。福祉的な運行目的は基本としながらも、本年度は公共交通網としての顧客ニーズを捉えた運行形態を試行してまいります。

#### ▼再生可能エネルギーの有効活用

コンソーシアムとして取り組んできた厚真町エネルギー地産地消事業は、町内公共施設3か所へ電力供給するための太陽光パネルや蓄電池、木質バイオマス発電施設の設置に着手します。また、この取組をきっかけに企業版ふるさと納税の寄附を受けることとなったことから、町独自の事業として、当該事業計画で想定していなかった、他の公共施設へも太陽光発電をベースとした再生可能エネルギーの供給が可能となりました。こちらの事業も蓄電池を備えたものであり、災害時にそれぞれの施設に十分な電気を供給することが可能となります。

#### ▼移住・定住の促進

ポストコロナ社会の変容により、地方での暮らしや働き方への注目が集まる中、「ムーブメント」として「疎」の価値が見直され、地方のさまざまな潜在力を耕しなおす機会が訪れています。本年3月に策定作業が完了する第2期地方創生総合戦略の取組を着実に進め、ローカルで挑むチャレンジを育て、子育て世代を積極的に受け入れ、町民が参画し、町民とともに成長する地方創生総合戦略としてまいります。

#### ▼建築・住宅

空き家等対策では、建物の適切な維持管理に関する情報提供や助言、利活用の支援など、総合的な空き家対策を推進してまいります。特定空家については、周囲の環境保全を図るため、強い指導とともに除却を推進してまいります。また、市街化調整区域などを対象とした空き家等利活用資金制度の広報に努め、新規就農者向けの住宅確保など地域資源の活用を推進してまいります。子育て支援住宅は上厚真地区に10戸を建設し、あわせて公営住宅長寿化計画策定を通じて、目的別住宅の再編成を行ってまいります。

#### ▼簡易水道・公共下水道

簡易水道については、上厚真地区の道道改良工事に伴う老朽管布設替え、および利用が増加している大沼野営場への配水管布設を実施し、水道未普及解消事業については、幌里生活館周辺までの配水管布設工事を実施します。

また、配水管の耐震化を計画的に実施してまいります。本年度については豊沢、富野両地区で工事を実施してまいります。

公共下水道については、ストックマネジメントに基づく計画的な施設の更新を実施し、また、合併処理浄化槽の整備事業については、公共下水道整備区域外の生活雑排水処理をこれまで浄化槽市町村設置整備事業により推進してきましたが、現在の町域における水洗化率はようやく80%に達しました。

#### ▼交通安全・防災対策

関係機関・団体と協力して交通安全運動の普及啓発に積極的に取り組み、町内での交通事故死ゼロの継続に努めてまいります。

本年度は、防災、減災に対応するため、津波、洪水浸水区域、土砂災害警戒区域などを網羅した防災ハザードマップを新たに作成します。なお、専用のアプリケーションを利用し、パソコンやスマートフォンなどからウェブ上でハザードマップやリアルタイムの災害情報、避難情報を確認できるようにしてまいります。

また、引き続き、全自治会における自主防災組織の設立と各地区の避難計画の策定を進め、互助・共助、公助による防災・減災体制の早期構築を推進するとともに、本年は、大規模災害を想定した総合防災訓練を関係機関と連携して実施し、地域防災力の向上に努めてまいります。

#### みんなで支えるあつまめざして

#### ▼住民自治の推進

今年度は、町民が主体的に行う地域課題の克服や地域共同活動を支援してまいります。

特に、本町が掲げるまちづくりの目標を町民や本町に関心を寄せていただける関係者・関係人口の皆さんと共有することが大切だと考えていますので、第4次総合計画後期計画や今後策定・改訂される各種計画などを、より閲覧しやすい形で迅速に

お届けできるよう、電子ブック化し、ウェブ上で公開してまいります。

#### ▼厚真町総合計画の推進

本年度以後の第4次厚真町総合計画後期計画では、災害に強くしなやかで持続的なまちづくりをめざし、「厚真町復旧・復興計画 第3期」、「第2期厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」、「厚真町強靱化計画」を、総合計画を構成する内包計画として策定を行いました。

今後は、北海道胆振東部地震からの復旧・復興、地方創生の推進、ポストコロナ社会の変容、SDGs（持続可能な開発目標）理念の具現化、情報通信技術革命・ソサイエティ5.0の取り込み、支え合う協働のまちづくりなど、安全・安心を第一とした多様で進歩的なまちづくりを推進してまいります。

#### ▼庁舎等公共施設の改修計画

公共施設の維持、改修、統合などについては、公共施設等総合管理計画に基づき、財政負担の平準化や軽減に努めてまいります。特に、役場庁舎を含む周辺整備については、防災機能、高断熱・高気密、省エネルギー、多目的要素、旧庁舎の保全被災地復興のランドマークとして求められるものも多いため、研究者の意見も参考にしながら基本構想を早期に策定し、庁舎外機能および事業規模、建設位置などについて、町民の皆さんのご意見を伺う機会を設けてまいります。

## 教育行政執行方針（要約）

### ひろい心で活力に充ち生涯学びつづける人間の育成をめざして

厚真町教育委員会教育長 遠藤 秀明

活動と教員研修の充実に努めてまいります。

特別支援教育では、通常学級で困難を抱えている児童たちへの効果的な指導、支援のために、「通級指導教室」を引き続き開設するほか、小学校において特別支援教育支援員を5人体制、中学校においては3人体制とし、個に応じた適切な教育環境の提供に努めてまいります。

#### ▼英語を活用しグローバル社会に生きる子どもの育成

グローバル社会に生きる子どもたちの育成をさらに進めるために、英語教育を本町の特徴ある教育活動の一つに位置付け、これまで小学校1年生からの外国語活動や小学校3年生からのコミュニケーション科の活動の充実に取り組んできました。子どもたちには外国人英語指導助手らとの積極的な発表や会話などの多様な活動を通じて、英語を活用したコミュニケーション能力の成長が見られます。

教育委員会では、本年度もイングリッシュ・デイキャンプやイングリッシュ・トワイアル、厚真PRプロジェクト

### 学校教育



#### ▼子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進

各学校における児童生徒の学習課題解決に向けた学校改善プランの実践と検証や「厚真の未来を語れる子」の育成を目指す小中一貫教育の取組を通して、児童生徒の可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進に努めてまいります。

また、児童生徒が職業や勤労、学習、諸活動に対する関心と意欲を高められるように、本町が有する地域資源や地域人材を生かしながら、地域の産業や働くことについて学ぶキャリア教育をふるさと教育の一環として実施してまいります。

学校教育におけるICTの活用については、GIGAスクール構想に基づき令和2年度に各小中学校に整備された高速大容量通信ネットワーク環境および1人1台のタブレット端末を有効に活用するため、本年度はICT教育支援員を配置・活用し、個々の学習ニーズに応じた学習

クト学習など、多様なコミュニケーション機会の確保と新学習指導要領に対応したカリキュラムづくりや指導の改善に努めてまいります。

また、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から実施を見送った中学校2年生と3年生を対象にしたオーストラリアへの海外派遣研修事業は、本年度は冬季休業期間中の実施を計画し、英語を活用できる児童生徒の育成の成果の検証や今後の本町の英語教育の一層の充実につなげてまいります。

#### ▼豊かな心と健やかな体を育む子どもの育成

教育委員会では、学校における教職員による子どもたちへの寄り添いはもろろのこと、各関係機関と連携したスクールカウンセラーによる巡回相談や専門家による心のサポート授業などを継続的に実施するなど、保護者を含め、子どもたちの心のケアを最優先してまいります。

本年度も厚真町のサポート・防災学習推進協議会を中心に、関連機関との連携の下、関連する情報の蓄積と共有、引継ぎをしっかりと行い、

個に応じた心のケアとサポートに努めてまいります。

「いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうる」という前提に立ち、学校の教育活動全体を通じ、「いじめは決して許されない」という理解を促し、心の通う人間関係を築いていく能力の素地を養うことが必要であり、学校、家庭、地域住民関係機関等との連携の下、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処などの対策を総合的かつ効果的に推進してまいります。

そのため、本年度も学校の重点課題として位置づけ、アンケート調査をはじめ、教育相談などを実施し、教職員間の子どもの情報共有を徹底するとともに、厚真町いじめ問題対策連絡協議会と連携を図りながら、いじめ防止の施策の充実に取り組んでまいります。

体力は健康的な生活を送る基盤となるもので、意欲や気力につながる重要な要素です。本年度も感染症対策等を徹底しながら、放課後の活動など、子どもたちの健康な体づくりと体力向上に向けて、学校、家庭地域と連携した取組を進めてまいります。

学校給食費については、本年4月に予定していた改定を見送り、現状を維持することとし、今後の賄材料費の動向を注視しながら学校給食費の適正化を図ってまいります。

#### ▼質の高い教育を支える教育環境の確保

## 社会教育

小・中学校間の連携の推進と円滑な接続については、「英語教育」、「ふるさと教育」、「授業づくり」、「特別支援教育」を柱とする本町ならではの中小一貫教育の充実を図るとともに、これまでの各種取組の成果を踏まえ、これらの施策を本年度設置する厚真町教育研究所に集約し、一体的かつ効果的に推進してまいります。また、これらの施策の展開に必要な学校と行政との重要な調整役等を担う専門的教育職員である指導主事を教育委員会事務局に新たに配置いたします。

子どもたちの安全・安心の確保については、厚真町通学路交通安全プログラムに基づく安全確保のための検証サイクルの推進に加え、大規模災害の経験や知見を踏まえた防災学習をふるさと教育の中で実施し充実を図るほか、交通安全教育、防犯教育など、学校と地域が連携し、地域全体で子どもたちを見守る体制の強化を図ってまいります。

教育環境の整備では、厚真中央小学校の屋外水泳プール更衣室の新設工事、上厚真小学校の登下校に使用する町道の改良工事を実施するほか、厚真中学校グラウンドを公認陸上競技場に改修するための実施設計に着手します。今後の地域振興やまちづくりにとって重要な教育機関である北海道厚真高等学校については、北海道厚真高等学校教育振興会への支援に加え、厚真高校活性化促進事業として、公営塾の開校に向けた準備など、魅力と特色ある学校づくりを支援してまいります。

## 社会全体の教育力の向上

教育の出発点でもある家庭の教育力の向上については、電子メディアとのかわりに焦点化し、子どもたちが発達段階に応じた自己コントロール力を身に付けられるよう、自ら電子メディアの利用の仕方を見直しながら、メディアコントロールを意識しながら、習慣の定着を図ることなどを基本に、学校、こども園、家庭、PTA、関係団体等と連携し、望ましい教育環境づくりと家庭教育支援の充実に努めてまいります。

また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動をはじめ、地域の企業や団体などの参画による「あつまるね」との活用など、学校と地域の協働体制を深化させるとともに、本年度は、ふるさと教育推進コーディネーターを配置し、産業や人材等の地域の資源を生かしたふるさと教育の充実に支援してまいります。

子どもたちの居場所の充実では、放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携を深めて、子どもたちの安全・安心な居場所づくりと多様な体験活動や異学年交流など、子どもたちの健全な発達を促す環境と機会の充実に努めてまいります。

さらに、自然環境の下で五感をフルに活用し、豊かな体験を積み重ね、子どもたちも大人も共に成長する場の一つとなる「冒険の杜」づくりは、ワークショップや共同作業を重ねるたびに進化を続けております。本年度もこども園の園庭づくりとも連携して地域住民が参画しやすい仕組みを整えながら、共につくる。プロセスを大切にしながら、事業を展開してまいります。

生涯学習社会づくりの推進

生涯を通じた多様な学習活動の推進については、厚真町ならではの資源を生かした親子の自然体験の実施や出前講座、英会話教室の開催など、町民の学習ニーズに沿った生涯学習活動の充実と町民の積極的な参加を促すとともに、インターネットを活用した研修会や体験会など新たな学びのスタイルの創出を図ってまいります。

また、本年度は、オリンピック開催年にちなんだ講師を招き、幅広い年代層を対象にした文化講演会を開催いたします。

人を育む読書活動の推進については、苫小牧市との定住自立圏構想による連携の下、図書室の充実を目指した電子書籍の導入を推進してまいります。また、図書フェスティバルの企画・開催やこども園、高齢者福祉施設等への移動図書車運行など、読書に親しむ機会の拡大と魅力ある図書室、図書サービスの提供に努めるほか、学校図書室や図書ボランティア団体とも連携しながら町民の読書活動の推進を図ってまいります。

## 郷土の歴史と文化財の保護・活用の推進

文化財の活用については、軽舞遺跡調査整理事務所を拠点に、郷土資料や埋蔵文化財を保存・管理しております。北海道胆振東部地震など地殻変動との関連性を示す町内の地層状況やアイヌ文化期の出土資料のほか、ふるさと教

育における活用資源の一つである郷土資料にも注目が集まっており、今後も保存・展示方法などに工夫を加えながら、歴史や文化の継承に努めてまいります。

## 生涯スポーツの推進

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催が延期された2020東京オリンピック・パラリンピックの本年開催にあわせ、本町でも聖火リレーやパラリンピック採火式が行われます。また、ホストタウンとして迎える大会でもありますので、本町の歴史的な歩みの一つとして後世に伝え、残していただけるよう取り組んでまいります。

本町においても生涯にわたるスポーツとの関わりから得られる体力づくりや健康づくり、交流などへの期待にこたえられるよう、地域の活力を生み出すスポーツイベントの企画、開催に努めてまいります。

本年で20回目（町民体育祭としては55回目）の節目を迎える集まりんピックは、体力づくりと交流を深める本町の代表的な行事の一つとして、多くの町民が集い、多様な世代間交流ができる貴重な機会にもなっております。今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら開催の有無を判断するとともに、開催にあたっては、子どもから高齢者まで多くの皆さんが参加し、楽しめるよう競技の工夫に努めてまいります。

また、スポーツ施設の整備については、建設後40年が経過し、老朽化が著しいスポーツセンターのアーリーナ床面の全面改修工事を実施し、安全性と機能性の改善を図ってまいります。

## 町職員の人事異動

4月1日付で町部局等の人事異動が発令されました。 ※()内は前職

### 厚真町人事

#### 異動

- 復興担当理事(兼) まちづくり推進課参事▼大坪秀幸(復興担当理事兼地方創生・復旧復興計画策定室長)
- 防災担当理事(兼) 総務課長(任期付)▼吉田良行(防災担当理事兼総務課長)
- 町社会福祉協議会事務局長(派遣) ▼木戸知二(総務課参事)
- 建設課長▼佐藤義彦(建設課参事)
- 建設課参事(任期付)▼伊藤文彦(建設課長)
- 上厚真支所長(再任用) ▼宮田美範(上厚真支所長)
- 産業経済課長▼木戸達也(議公事務局長)
- 総務課防災グループ主幹▼蛇池克広(総務課情報防災グループ主幹)
- 総務課防災グループ主幹▼起田淳(総務課情報防災グループ主幹)
- まちづくり推進課復興推進

- グループ主幹▼小山敏史(まちづくり推進課地方創生・復旧復興計画策定室主幹)
- 住民課子育て支援グループ主幹(宮の森こども園長)
- ▼宮下葉子(住民課子育て支援包括センター主幹)
- 住民課健康推進グループ主幹▼笹森あゆみ(住民課健康推進グループ主幹)
- 産業経済課林業水産グループ主幹▼渡辺洋平(産業経済課林業水産グループ主査)
- 総務課防災グループ主査▼北川桂(総務課情報防災グループ主査)
- まちづくり推進課町史・災害史編さん室主査▼山口憲一(まちづくり推進課企画調整グループ主査)
- まちづくり推進課復興推進グループ主査▼森本雄介(まちづくり推進課地方創生・復旧復興計画策定室主査)
- まちづくり推進課企画調整グループ主査▼近藤奈々子(住民課町民生活グループ主査)
- 住民課町民生活グループ主査▼渡辺亮(住民課税務グループ主任)
- 住民課子育て世代包括支援センター主査▼藤樫ゆかり(住民課子育て支援グループ主任)

- 住民課子育て支援グループ主査▼大浦久子(住民課子育て支援グループ主任)
- 建設課土木グループ主査▼寺嶋真一(北海道から派遣)
- 総務課総務人事グループ主任▼池川勲(まちづくり推進課地方創生・復旧復興計画策定室主任)
- 総務課総務人事グループ主任▼日野弥生(総務課総務人事グループ主任)
- 住民課税務グループ主任▼中山亮(住民課税務グループ主任)
- 住民課子育て支援グループ主任▼穴戸麻美(住民課子育て支援グループ主任)
- 産業経済課農業グループ主任▼藤田あさこ(産業経済課農業グループ主任)
- 建設課都市計画グループ主任▼大川琢哉(建設課都市計画グループ主任)
- 建設課建築住宅グループ主任▼山崎友裕(建設課建築住宅グループ主任)
- 建設課土木グループ主任▼中田恭平(建設課土木グループ主任)
- 会計室主任▼小野寺崇伸(会計室主事)
- 建設課土木グループ主任▼稲森勝大(北海道から派遣)
- 総務課総務人事グループ主任▼小山田俊(総務課情報

- 防災グループ主事)
- 住民課子育て世代包括支援センター主事▼井上朋美(住民課健康推進グループ主事)
- 総務課総務人事グループ主事▼山家和田(建設課都市計画グループ主事)
- 兼住民課子育て世代包括支援センター主事▼杉山効平(住民課健康推進グループ主事)

#### 新規採用

- 住民課税務グループ主任▼伊東睦美
- 住民課健康推進グループ主事▼堀井菜々恵
- 産業経済課農業グループ主事▼三上勇

#### 任期付職員

- 住民課子育て支援グループ主事(任期付)▼齊藤ひなの

#### 議会事務局人事

- 議会事務局長▼甫一樹(生涯学習課参事)

#### 教育委員会人事

- 生涯学習課長▼加藤克彦(産業経済課長)
- 生涯学習課参事▼宮下桂(生涯学習課長)
- 教育委員会生涯学習課参事▼作田和彦

- 生涯学習課学校教育グループ主査▼南部友基(生涯学習課学校教育グループ主任)
- 生涯学習課社会教育グループ主任▼斉藤烈(生涯学習課社会教育グループ主事)
- 生涯学習課学校教育グループ主事▼森山明日香(住民課町民生活グループ主事)
- ▼青木久美子(住民課子育て支援グループ主幹、宮の森こども園長)
- ▼安田芳和(総務課総務人事グループ主査)
- ▼長瀬夢子(まちづくり推進課企画調整グループ主任)
- ▼川村航太(総務課総務人事グループ主幹)
- ▼佐々木真喜子(生涯学習課学校教育グループ主事)